

ライブカメラで学ぶ雪稜の登攀予測

OWCC 中川和道 20220714

積雪期に剣岳や穂高を登ろうとすると、入山前に雪山の今の姿を見たいのだが、これが昔(1970年頃)は本当に難しかった。大森弘一郎氏が飛行機で日本アルプスの空を飛んで空撮カラー写真集を山と溪谷社から出版されたときの衝撃は大きかった。代表作 空撮『北アルプス』1990年[1]では「これは神の視座だ。この角度から山を見ることは人間には許されないんじゃないか？」との論評に中川も深く同意したのをよく覚えている。ひるがえって現在、時代は画期的に進んだ。各地にライブカメラが設置され、自宅に居ながらにして、日本の世界の山々の今の姿を目の当たりにすることができる。仕事現役のころ中川は、コンピューターを立ち上げたら、まず、白馬大橋のライブカメラを訪ね、白馬岳主稜の現状や白馬村の里の四季を眺めてから仕事にかかっていたものだ。今回は、ライブカメラたちが教えてくれる雪山の情報を書いてみよう。

ライブカメラには各人各様の楽しみ方がある。金剛山のカメラには撮影定時に映り込むことが定番の楽しみになっているという。中川は、下記のとおり、雪稜の登攀予測に用いている。みなさんは、どんな楽しみをしておられますか？

白馬岳主稜：前述の「白馬大橋」からの映像(白馬村提供)は休止。代わって、下記[2]から「白馬三山」を選択すると主稜を側面から見られ、ルート判断に都合がよい。

鹿島槍ヶ岳北壁+カクネ里：遠見尾根からのあの雄大な雪渓。下記[2]から「カクネ里雪渓」を選択。氷河に認定された。記念山行をしたい。

前穂高岳北尾根、北穂高岳東稜：蝶ヶ岳から、涸沢カール・前穂・奥穂・涸沢岳・北穂・キレット・槍ヶ岳を遠望。下記[2]から「槍・穂高連峰」を選択。

立山東面：11月末の最終バスで、雪山訓練、スキー初滑りに出かけるかどうかの決断に使う。下記[2]から「立山」を選択。

剣岳ハツ峰VI峰など：下記[3]から「立山山頂」を選択。5月の残雪状況や必要装備のヒントが。

笠ヶ岳当面の雪稜たち：下記[2]の「笠ヶ岳」は、過去の画像まで検索可能だが取付きがカットされていて不便。下記[3]の「笠ヶ岳」は取付きが見えるものの過去画像はない。

阿弥陀岳+赤岳：下記[3]の「八ヶ岳連峰」を選択。遠望なので、見え方と現実の雪の量の対応づけを経験で学んでおく必要あり。

[1]空撮「北アルプス」、1990年7月、山と溪谷社

[2]国立環境研究所地球環境研究センター、「温暖化影響モニタリング(高山帯)」で検索。

<https://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/mountain/> 数十もの山体の画像あり。研究用にとの提供なので、現氷河、旧氷河に重点があると中川は思う。過去画像が検索可能で研究者の本気度を感じる。人物にはモザイクの配慮がなされる個所もある。

[3]「山のライブカメラ」サイト。<https://www.yama-live.com/yamalive.htm> 利尻からアイガーまで見られる。研究資料として価値が高い。